

1 はじめに

子どもを取り巻く社会状況が急激に変化する中、自分の生活を見つめ、人や物、自然などのかかわりを通して、自分らしく生きるための知識・技能を培うことが大切である。児童生徒一人一人が自らの課題を自分の問題としてとらえ、課題解決学習をどのように進めたらいいか、家庭での実践につなげていくためにどのような支援が有効であるかを明らかにするために研究主題「児童生徒が生活の自立を目指し、進んで実践する態度をはぐくむ支援の工夫」を踏まえ、授業実践を行った。

2 研究の実際

(1) 題材名 「まかせてね 今日の食事」 ～ポスターセッションで伝い合い～

(2) 題材のねらい

- ① 自分の食生活をふり返り、家族に喜ばれるおかずを作ろうとする。
- ② 家族が喜ぶ一食分の献立とおかずについて考えたり、食品を組み合わせて自分なりに工夫して作ったりしている。
- ③ これまでの学習を生かして、調理計画を立て、安全や衛生に気を付けて調理することができる。
- ④ 食品の選び方やいろいろな調理の仕方を理解している。

(3) 題材について

- ・表現力を高めるための「言語活動」を重視し、また、子どもたち同士の「伝え合い」の活動を設定することで、語彙を増やしたり、かかわりを広げ、深めたりすることができる。本題材では、グループ活動を中心に全員が発言する場を設定したり、ポスターセッションで献立を発表し合ったりすることで、伝え合いの活動を活性化した。
- ・授業の構成や板書を構造化したり、情報を視覚化したりするなど「ユニバーサルデザイン」の手法を取り入れることで全員参加の授業を目指した。
- ・自然豊かな頸城区の特色を生かし、「地域の人材」「地域の食材」を取り入れて、地域の食文化、新鮮で安全な食材を子どもたちに意識できるようにした。
- ・「家族が喜ぶ食事」という視点を中心に、家族の一員としての役割や喜びにつなげた。家族が喜ぶためのキーワード「栄養のバランス」「盛りつけ」「味付け」などを一食分の献立作りを通して、自分たちのキーワードとなるように追究してきた。

(4) 題材の構想

小学校家庭科の最後の食領域の題材であり、自分のことができつつある6年生後半のこの時期に「家族が喜ぶ食事」をテーマにすることで、より子どもたちの自立に向けた学習にしたいと考えた。本題材では、「家族が喜ぶ」ためのキーワードをグループで話し合い、学級全体で決める時間をとった。「栄養のバランス」「いろどり」「おいしい味」「家族が好きな味」「安心・安全」にまとめ、どのように献立作りを生かすかを話し合いながら進めていく。グループごとの献立をポスターセッションで発表し合い、改善につなげた。調理実習では、おかず2品を調理し、そのふり返りを家庭での実践につなげた。

3 成果と課題

キーワード作りでは、付箋を使ってグルーピングしたものを発表し合い、学級全体で決めることで、献立作り、調理実習、家庭での実践まで、「家族が喜ぶ」という課題を意識して学習を進めることができていた。また、ポスターセ



ッションでは一人一人が自分の献立にこだわりをもって発表することができ、友だち同士で意見交換ができていた。最初は自分たちの献立の変更を躊躇していた子ども

たちだったが、よりよい献立にするめあてを事前に提示することで献立を改善することができた。さらに、子どもたちの調理や生活経験の乏しさから、キーワードを具体的な献立につなげるところが難しいようだったが、班活動での意見交流とポスターセッションでの献立発表会を取り入れることで、「家族への思い」の表現につなげることができた。今後は、さらに、子どもたち同士の伝え合いによって学習をより深化できる学習課題や題材構想を追究していきたい。

